

# 相生っ子

○本年度の相生っ子のめあて  
—あいさつ・言葉づかい・発表—



令和3年7月14日 相生小学校 校長室だより

第14号 文責：岩佐隆之

## 5・6年で、子どもたちがそれぞれ話し合いを進めた学級会の研究授業

本校は「児童が主役の学校づくり」をめざし、特別活動の充実・推進に取り組んでいます。また、今年は、今までの取組が認められ、「へき地教育・特別活動」において、国立教育研究所の教育課程実践検証協力校にも指定されました。特別活動は、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の4つの内容があり、今年は特に、学級や学校生活をよりよくするために、子どもたち自身で話し合い、解決を図ろうとする「学級会」の研究実践を進めています。

1日(木)は、5年生が「思い出に残る体験学習にしよう」という議題で、また5日(月)は、6年生が「水中オリンピックをしよう」という議題で、学級会を行いました。5日は、郡内の先生方だけでなく、東京から教科調査官もリモートで参加してくださいました。

どちらの学年も、司会や記録を子どもたちが務め、自分たちで話し合いを進めようと役割をしっかりと果たしました。また、フロアの子どもたちも、友達の意見を聞きながら、質問や賛成・反対意見、その理由を発表し、どうすればみんなが納得する決定ができるかを考えて発言をしていました。本当によく頑張っていました。「折り合いをつけながら、話し合って決める」経験は、社会に出ても役立ちます。多数決だけで決めるのではなく、少数意見や全員の意見を尊重するにはどうしたらよいか、時間内に決定するためにどうしたらよいか、子どもたちとも話し合いながら、これからもよりよい合意形成を図る話し合いの経験を積み重ねていきます。



## 8日(木)は、タブレットを活用した1年図工の楽しい研究授業でした

題材は、こすり出しの技法を用いた「こすってあそぼう!」でした。2人組で遊具や建物の壁の模様を色鉛筆でこすり出し、タブレットに撮ります。そして教室に帰り、お気に入りの模様をクイズ形式で伝え合いました。場所を移動しながら、多くの活動が設定されていましたが、しっかり話を聞き、様々なお気に入りの模様を見つけていった1年生。タブレットの操作も手慣れたもので、4月から使ってきた成果が出ています。友達にやさしく声をかけたり、協力し合ったりする場面も見られました。今後は、写し取った模様クレパスで絵を書き加えたり、はさみで切って組み合わせたりして仕上げた後、互いに作品を見合います。



(裏面もご覧ください。)

## 応援旗に、カヌー選手団へのメッセージを、ドイツ語で書きました。

6日(火)は、ドイツ国際交流員の方が2名来校し、5・6年生がドイツの自然や文化、食べ物等について学んだあと、簡単なドイツ語を教わりました。そして、大きな応援旗に、教わったドイツ語でメッセージを書きました。好きなイラストや自分の店の宣伝を書いた子どもいました。旗は、ダム湖の練習場や宿泊先のもみじ川温泉に掲げられます。遠くからなら、練習の様子も見えるそうです。メダル候補が多くいるドイツのカヌー選手団。活躍を期待して、本番は画面に向かってみんなで応援したいですね。なお、ビデオ取材もありました。

○ドイツの人が来てくれたので、ドイツのいろんなことが知れました。ドイツと日本の面積が同じくらいということ、山のある所とない所があることがわかりました。ドイツのご飯も食べたいと思いました。ドイツのいいところがたくさん知れて、よかったです。旗にメッセージを書きました。カヌーをがんばってほしいです。私はドイツ語を聞いたことがなかったので、練習ができて良かったです。またあの2人に会って、しゃべりたいなと思いました。(6年)

○ドイツの方が、ドイツの国の説明をしに来てくれました。選手は丸1日かけて、那賀町に来てくれます。応援しようと思いました。行って応援できないので、テレビで応援して、金メダルを取ってほしいです。(6年)

○今日、ドイツの人やカヌーの関係者などが来ました。外国語の授業では、英語やアメリカのことしかしないけど、ドイツの文化や言葉などが学べてよかったです。それに、那賀町に来るオリンピック選手に応援メッセージが書けてよかったです。ドイツの選手が来るので、私もカヌーをやりたいです。(6年)

## 今年も3年生が、「晩茶育」に取り組み、摘み取りから桶漬けまで行いました

9日(金)は保護者の森さん(鮎川)の茶畑や作業場で、3年生が茶葉を摘み取り、釜でゆでて選別し、葉を手や揉捻機でもんで、桶に漬けるまでの活動を行いました。蒸し暑く、時には雨が降る中での作業となりましたが、どの子ども汗をかきながら一生懸命に行いました。学校に持ち帰った桶を見ると、発酵が進んでいることがよくわかります。3年生の努力の賜物です。森さん、お忙しい中、本当にありがとうございました。できあがりを楽しみます。

「晩茶育」は開校以来の伝統で、毎年3年生が取り組んでいます。本校の代表的なふるさと学習のひとつです。今年度、「阿波晩茶の製造技術」は、独特の乳酸菌発酵での製茶法が認められ、「国指定重要民俗文化財」となりました。暑い時期で手間のかかる作業ですが、若手の生産者も増えています。健康飲料としても、見直されている阿波晩茶。相生っ子がその良さを知り、これからも伝統産業を受け継いでいってほしいと願っています。

○今日、晩茶をつんでみて、とるのは少しかたかったけど、みんなとなかよくできたことがうれしかったです。半分いじょうつみました。楽しかったです。じゅうねんきで晩茶をすると、少しあわが出てきました。じゅうねんきは、晩茶をどうするのか気になっていたの、いい体けんになりました。また、自分で作った晩茶を飲んでみたいです。○今日、晩茶つみにいきました。お茶をゆでる時、マタギでみんなとまぜたことが楽しかったです。葉っぱをふむ時、さちかちゃんのお母さんにコツを教えてもらったので、上手にふめました。早くみんなで作った晩茶をのみたいです。(いずれも3年)



(裏面もご覧ください。)